

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991700046		
法人名	(株)エーエルイー		
事業所名	グループホームカーサ西八幡		
所在地	山梨県甲斐市西八幡1707-1		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年22日(火)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◎その人らしく暮らせるように、快適で家庭的な生活をサポートします。</p> <p>◎心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。</p> <p>◎さまざまな機会を通じ、地域の人々とのふれあいを大切にします。の3つの【理念】を念頭に置きながら、認知症の入居者様が、マイペースに、自分らしく生活ができるように職員は支援している。日々の散歩や、外出レクなど、施設にこもるのではなく、なるべく外へ出る機会を作り、体を動かす事も実施している。またご家族様の希望により、在宅医と連携を取りながら入居者様の健康管理も行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は2階建の2ユニットで畑をはさみ大通りに面して建てられている。近くにはプールと公園があり、散歩コースとして日常的に利用している。そこで出会う地域の人々との交流がある。事業所の駐車場が災害時の第一避難場所になっていて、防災訓練時には地域の人々と一緒に行っている。また、施設見学をする方もいる。管理者は改善点があれば一つ一つ変えていこうと言う姿勢が伺え、家族の意見・要望等にも、苦情になる前にきちんと対応したいと考えている。職員は3つの理念に沿って、無理じいはずに利用者本位の支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

調査シート(自己評価および外部評価結果)

事業所名(グループホームカーサ西八幡)

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			1階	2階	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員に、理念に基づいた支援ができるよう、意識の共有を図るようにしている。	各職員に、理念に基づいた支援ができるよう、意識の共有を図るようにしている。	3つの理念がフロアに掲げてあり、申し送り(朝礼・夕礼)時に読み確認をしている。また、フロア会議時にも理念を取り上げて、職員間で共有している。理念である「その人らしさを大切に、心を込めて親切に、地域の人々とのふれあいを大切に」をケアの中で日々、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会活動である防災訓練には、入居者様と職員で参加し、地域の方と交流している。地域のお祭りにも参加させて頂き、入居者様も楽しまれている。	地域の自治会活動である防災訓練には、入居者様と職員で参加し、地域の方と交流している。地域のお祭りにも参加させて頂き、入居者様も楽しまれている。	近くの公園に散歩時には地域の人々が声をかけてくれたり、挨拶を交し合っている。自治会の防災訓練時には利用者と共に参加しており、事業所の駐車場が地域の第一避難場所なので、地域の人々との交流が広がっている。地域のお祭りに参加したり、月1回のボランティアが来訪しての交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人のデイサービスと共同で、認知症サポーター研修をこれまでに2回開催し、ご近所の方にも参加させて頂き、理解を深めて頂きました。また、施設内で行なう納涼祭にも近隣の方にも参加して頂き、施設内の見学や、施設への理解を深めて頂いている。	同法人のデイサービスと共同で、認知症サポーター研修をこれまでに2回開催し、ご近所の方にも参加させて頂き、理解を深めて頂きました。また、施設内で行なう納涼祭にも近隣の方にも参加して頂き、施設内の見学や、施設への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市代表(市職員)、地域代表(自治会長)、ご家族様、入居者様、職員で2ヶ月に1回開催。運営推進会議で意見はすぐフロアの職員に伝え共有し改善すべき所は改善し、より良い支援につなげている。	市代表(市職員)、地域代表(自治会長)、ご家族様、入居者様、職員で2ヶ月に1回開催。運営推進会議で意見はすぐフロアの職員に伝え共有し改善すべき所は改善し、より良い支援につなげている。	2か月に1回運営推進会議を開き、事業所の状況や外部評価の結果も含めて、会議録を家族が閲覧出来るようにしてある。フロア会議では議題に出して職員間で話し合っている。家族の意見として「本人を訪問した方を知りたいので訪問者名簿を作ってほしい」との事から、事務所および利用者の居室に置いて記入してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことがあれば、運営推進会議や直接市役所に出向くなどし、相談している。	困ったことがあれば、運営推進会議や直接市役所に出向くなどし、相談している。	市の担当課には定期的に出向いて、相談をしたり、様々な情報を貰っている。運営推進会議にも担当課職員が出席しており、困ったことがあればいつでも相談出来る関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。また、スピーチロックや4方向のペット柵、施錠する事なども身体拘束になることを職員に伝え理解してもらいおこなわないようにしている。	身体拘束はしていない。また、スピーチロックや4方向のペット柵、施錠する事なども身体拘束になることを職員に伝え理解してもらいおこなわないようにしている。	スピーチロックに関しての資料を全職員が読み、確認をし実践につなげている。フロア会議でも拘束に繋がる否定的な言葉かけをしない事や、言い方ひとつで相手の受け止め方や印象が変わることを伝えて共有するようにしている。玄関の施錠を含めて身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はしていない。会議等で虐待防止の勉強会を開催している。今後は虐待防止委員会を立ち上げて防止に努め、職員へのストレス軽減も考慮した対話を心がけている。	虐待はしていない。会議等で虐待防止の勉強会を開催している。今後は虐待防止委員会を立ち上げて防止に努め、職員へのストレス軽減も考慮した対話を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、研修の機会があれば是非参加をして、職員と共に知識を深め活用できるようにしていきたいと思っています。	成年後見人制度については、研修の機会があれば是非参加をして、職員と共に知識を深め活用できるようにしていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分に時間をとり、入居者様、ご家族様が納得して頂くまで説明をしている。入居された後も、不明点があればその都度答えるようにしている。	契約の際は、十分に時間をとり、入居者様、ご家族様が納得して頂くまで説明をしている。入居された後も、不明点があればその都度答えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			1階	2階	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、入居者様やご家族様とは、意見交換しやすい関係性が出来ており、何気ない会話からも意見を聞き取り、改善につなげるようになっている。また、定期的に運営推進会議を実施し、そこで出た意見を取り入れ、より良い支援につながるようになっている。	日頃から、入居者様やご家族様とは、意見交換しやすい関係性が出来ており、何気ない会話からも意見を聞き取り、改善につなげるようになっている。また、定期的に運営推進会議を実施し、そこで出た意見を取り入れ、より良い支援につながるようになっている。	運営推進会議に出席した家族や面会時に意見や要望を聞いている。利用者の様子を伝えて、積極的に話を伺っているが家族からは感謝の言葉が多い。遠方の家族には定期的に電話でのやり取りや事業所のお便りで意見・要望を伺い、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各フロア会議などで、職員の意見を聞き、運営に反映させるようになっている。	毎月各フロア会議などで、職員の意見を聞き、運営に反映させるようになっている。	毎月フロア会議時は職員から様々な意見・要望が出ており、普段からも管理者と職員は話し易い関係が出来ている。利用者の安全のための浴室の手すり設置の件は現在進めている。換気や湿度が足りない等、日々の改善点は日常的にあり、話し合いを行いながら実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の社長、管理者等は、各職員の良い面を把握しより伸ばしていけるように声掛け・指導している。また、各職員の労働条件などを把握し、働きやすい環境になるように心がけている。	法人の社長、管理者等は、各職員の良い面を把握しより伸ばしていけるように声掛け・指導している。また、各職員の労働条件などを把握し、働きやすい環境になるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職の経験が浅い職員が多い為、まずは現場で管理者やリーダーが、丁寧に教えるようにしている。また、フロア会議などでも、勉強会を開き知識を増やしてもらうようにしている。外部の研修にも参加している。	介護職の経験が浅い職員が多い為、まずは現場で管理者やリーダーが、丁寧に教えるようにしている。また、フロア会議などでも、勉強会を開き知識を増やしてもらうようにしている。外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の施設とは、共同で勉強会等を開催し、情報交換をしている。また、食事会なども適宜開催している。	同法人の施設とは、共同で勉強会等を開催し、情報交換をしている。また、食事会なども適宜開催している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とは、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。	入居者様とは、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。また、入居者様の立場になり代弁者としてご家族様と支援の話し合いを行なっている。	ご家族様とも、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。また、入居者様の立場になり代弁者としてご家族様と支援の話し合いを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	納得がいくまで話し合いを行ない、情報収集をし色々な方面からみて判断が必要があれば他のサービス利用も検討しながら、施設での生活が快適に行えるように支援している。	納得がいくまで話し合いを行ない、情報収集をし色々な方面からみて判断が必要があれば他のサービス利用も検討しながら、施設での生活が快適に行えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活の場であって、職員は家族のような存在であるという気持ちをもつようになっている。よって、家族のように温かい気持ちで入居者様に接することができ、入居者様も楽しく生活が出来ていると思う。	グループホームは生活の場であって、職員は家族のような存在であるという気持ちをもつようになっている。よって、家族のように温かい気持ちで入居者様に接することができ、入居者様も楽しく生活が出来ていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			1階	2階	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、入所時に面会が自由にでき、入居者様も心待ちにしている方が多い事をお話している。その結果、どの家族も頻繁に面会に来ることも多く、その都度状況なども話ができて、施設だけでなく、ご家族様も協力して介護に携わっているという意識がある方が多いように思う。	ご家族様には、入所時に面会が自由にでき、入居者様も心待ちにしている方が多い事をお話している。その結果、どの家族も頻繁に面会に来ることも多く、その都度状況なども話ができて、施設だけでなく、ご家族様も協力して介護に携わっているという意識がある方が多いように思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人からの入居もある為、そこからのご友人が面会に来られてお茶を飲みながらお話をされている。	同法人からの入居もある為、そこからのご友人が面会に来られてお茶を飲みながらお話をされている。	家族と一緒に墓参りに行ったり、定期的に温泉に出かける利用者もいる。同法人の事業所に入居していた時、馴染みの関係になった友人が面会に来た時には、力強く笑顔で話している。頂き物へのお礼や遠方の家族への電話を取り次いだり、健康がすぐれない利用者が友人の面会を非常に喜び職員は馴染みの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で会話が成立することが難しいので、職員が中に入り、スムーズに会話ができるようにしている。	入居者様同士で会話が成立することが難しいので、職員が中に入り、スムーズに会話ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後も、必要があれば相談、支援に応じている。	サービスが終了後も、必要があれば相談、支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずはご本人様に関して、可能な限り希望に添えるようにしている。ご本人様が言えない場合は、今までの生活歴やご家族様に意見を聞き情報収集をし、ご本人様の希望に添えるような支援を心がけている。	まずはご本人様に関して、可能な限り希望に添えるようにしている。ご本人様が言えない場合は、今までの生活歴やご家族様に意見を聞き情報収集をし、ご本人様の希望に添えるような支援を心がけている。	基本的には入居時のアセスメントをしっかりと把握している。その上で場面ごとに利用者に関して自己決定出来るようにしている。義歯を装着した方が良いとのアドバイスがあったが利用者の「必要がない」との判断で装着していない。意思疎通が困難な方には家族や日々の係わりの中で声かけ把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、家族関係、趣味など、情報収集を行ない、家にいた時と同じような生活が、施設でも行えるようにしている。	これまでの生活歴、家族関係、趣味など、情報収集を行ない、家にいた時と同じような生活が、施設でも行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や入浴以外には、あまり細かい決まりを作らず、マイペースに生活ができるようにしている。	食事や入浴以外には、あまり細かい決まりを作らず、マイペースに生活ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のフロア会議で各入居者様のカンファレンスを行なっている。またご家族様にも意見を伺い介護計画に反映させている。	月に1回のフロア会議で各入居者様のカンファレンスを行なっている。またご家族様にも意見を伺い介護計画に反映させている。	毎月フロア会議で利用者一人ひとり見直しをしている。居室担当者や職員の気づき・意見を参考に、課題があれば、カンファレンスを行い介護計画に反映させている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを繰り返し行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に支援経過を書いており、簡潔に様子がわかるように記録し、どの職員が見てもわかるようにしている。また全体の介護記録や引き継ぎノート・気づきノートがあり情報の共有を図るようにしている。	個々に支援経過を書いており、簡潔に様子がわかるように記録し、どの職員が見てもわかるようにしている。また全体の介護記録や引き継ぎノート・気づきノートがあり情報の共有を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			1階	2階	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度のニーズには、ご家族様とも相談をしながら、柔軟に対応するようにしている。	その都度のニーズには、ご家族様とも相談をしながら、柔軟に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方と、日々の散歩時にお話をしたり、近所のお店を利用したり、顔なじみの関係でいられるように努めている。	近隣の方と、日々の散歩時にお話をしたり、近所のお店を利用したり、顔なじみの関係でいられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は家族対応でお願いしているが、ご家族様が関われない方のご入居者様は職員対応にて提携病院に受診している。また、通院が負担になる方はご家族様の意向により在宅医にお願いしている。	基本は家族対応でお願いしているが、ご家族様が関われない方のご入居者様は職員対応にて提携病院に受診している。また、通院が負担になる方はご家族様の意向により在宅医にお願いしている。	受診は専門医を含めて基本的に家族の対応としているが、家族が対応できない方は事業所の提携病院へかかりつけ医の紹介状を持って職員が付き添い受診している。受診結果を医療機関受診結果連絡書で家族と共有している。提携病院に受診が出来ない方には在宅医が訪問診療を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に3日看護師が勤務している(同法人のデイサービスと兼務)が、勤務していない日も入居者様の変化があれば、電話連絡などで相談し、適宜対策をとるようにしている。	週に3日看護師が勤務している(同法人のデイサービスと兼務)が、勤務していない日も入居者様の変化があれば、電話連絡などで相談し、適宜対策をとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際の情報提供などは適宜行っている。また面会やカンファレンスなどに出向き、情報把握に努めている。	入居者様が入院した際の情報提供などは適宜行っている。また面会やカンファレンスなどに出向き、情報把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの実績はまだないが、在宅医と提携しており、入居者様の状態やご家族様の意向を聞きながら対応する準備は出来ている。看取りに関する職員研修も行き、カンファレンスしながら入居者様やご家族様に安心して日々を過ごして頂けるように取り組み始めている。	看取りの実績はまだないが、在宅医と提携しており、入居者様の状態やご家族様の意向を聞きながら対応する準備は出来ている。看取りに関する職員研修も行き、カンファレンスしながら入居者様やご家族様に安心して日々を過ごして頂けるように取り組み始めている。	入居契約時に重度化した時や終末期における事業所の対応を説明し、看取りについて話し合っている。看取りに関して、在宅医や看護師との医療連携体制を整えており、職員は両者から看取りの研修を受けて理解している。最近短期間で看取りの際には事業所、在宅医、家族がその都度話し合いを重ねて看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議などで、急変時における対応の勉強会を行なっている。	フロア会議などで、急変時における対応の勉強会を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回、入居者様と職員で防災訓練を行なっている。その際に初期消火訓練、避難訓練、通報訓練を行なっている。	半年に1回、入居者様と職員で防災訓練を行なっている。その際に初期消火訓練、避難訓練、通報訓練を行なっている。	1年に2回、日中と夜間想定での防災訓練を実施している。初期消火訓練、通報訓練、一時避難場所へ車いすの方を一人ひとり背負っての避難誘導を行い、消防署が来て訓練の様子を見て貰い指導を受けているが、夜間想定訓練を全職員が身に付ける事が重要です。備蓄品は準備してある。	夜間想定訓練を定期的に行い全職員が身に付ける事。実施した訓練を記録に残し、災害時の具体的な避難策を昼夜を通して検討し、また、事業所は地域の避難場所になっている事から、地域との協力体制を築く事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は、認知症である前に、長い人生を歩んでこられた先輩であることを十分理解し、丁寧な声掛け、対応を心がけている。またその方のペースに合わせて、ゆったりとした支援を心がけている。	入居者様は、認知症である前に、長い人生を歩んでこられた先輩であることを十分理解し、丁寧な声掛け、対応を心がけている。またその方のペースに合わせて、ゆったりとした支援を心がけている。	書類関連の物は管理しており、申し送りノートも人目につかない所に置いてある。利用者は人生の先輩であることを心掛けながら、時には家族的な感覚(おじいちゃん、おばあちゃん)も大切に、言葉かけを行っている。利用者との信頼関係を築く事が大切と考えており、ケアに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			1階	2階	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人様に確認し、希望を言える方は希望を伺っているが、希望が言えない方は、ご家族様に聞くなどし、なるべく希望に沿った自己決定が出来るようにしている。	まずはご本人様に確認し、希望を言える方は希望を伺っているが、希望が言えない方は、ご家族様に聞くなどし、なるべく希望に沿った自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴の時間は決まっているが、それ以外はご本人様のペースに合わせた生活が出来るようにしている。	食事の時間や入浴の時間は決まっているが、それ以外はご本人様のペースに合わせた生活が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望に合った服装、おしゃれが出来るように支援している。	ご本人様の希望に合った服装、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下困難な方もいるので、状態に合わせてミキサー食にしたりし、その方に合った形態で食事を提供している。屋食の汁物のみ入居者様と職員で作っている。また、テーブル拭きや下膳など、出来ることはなるべくして頂くようにしている。	嚥下困難な方もいるので、状態に合わせてミキサー食にしたりし、その方に合った形態で食事を提供している。屋食の汁物のみ入居者様と職員で作っている。また、テーブル拭きや下膳など、出来ることはなるべくして頂くようにしている。	業者を利用しているが、事業所内で味噌汁を利用者も一緒に作っている。味噌汁作りに参加する事で、利用者から「美味しい」との言葉が発せられた。テーブル拭き、後片付け、下膳等出来る利用者が行っている。「部屋でラーメンを食べたい」という利用者の希望に添い支援をして喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業者の栄養士が考えたバランスの良い食事を温めて提供している。嚥下の状態に合わせて食事の形態を変更し、むせが無く食事出来るように工夫している。水分摂取も確認を行ない、少ない方には促したり、ゼリーを摂取して頂いている。	献立は業者の栄養士が考えたバランスの良い食事を温めて提供している。嚥下の状態に合わせて食事の形態を変更し、むせが無く食事出来るように工夫している。水分摂取も確認を行ない、少ない方には促したり、ゼリーを摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、出来ない所は、介助しながら行っている。入れ歯の不具合等があれば、近くの歯科へ付き添い受診を行っている。	毎食後、口腔ケアを行ない、出来ない所は、介助しながら行っている。入れ歯の不具合等があれば、近くの歯科へ付き添い受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェックシートを活用し各入居者様の排泄パターンの把握をし、それに合わせて声掛けをしたり、トイレ誘導し、なるべくトイレで排泄が出来るようにしている。	排尿チェックシートを活用し各入居者様の排泄パターンの把握をし、それに合わせて声掛けをしたり、トイレ誘導し、なるべくトイレで排泄が出来るようにしている。	排泄チェック表を利用して、利用者が使用しているパンツ類を把握しながら、声掛け・誘導して、トイレでの排泄を目指している。トイレ介助の際はプライバシーに気を付けており、排泄中はトイレ外で待ち、「失礼します」と声をかけて中に入り、歩行を見守るなどの対応をとっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課として歩行できる方は散歩をし、車いすの方もチェアエクササイズなどの運動をしている。水分摂取量もチェックし便秘の予防に努めているが、それでも便秘になる方には主治医と相談し、下剤等の処方をしていただいている。	日々の日課として歩行できる方は散歩をし、車いすの方もチェアエクササイズなどの運動をしている。水分摂取量もチェックし便秘の予防に努めているが、それでも便秘になる方には主治医と相談し、下剤等の処方をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間だけは、職員の配置が多い時間と決めているが、毎日入りたい方は毎日でも入浴可能となっている。	入浴の時間だけは、職員の配置が多い時間と決めているが、毎日入りたい方は毎日でも入浴可能となっている。	毎日一日を通して入浴できる。一週間に2回位は入り、毎日入りたい方にも対応している。入浴を嫌がる方には午前中のうちから工夫して言葉かけを行い入浴するようにしている。同性介護の希望にも対応している。冬至にはゆず湯にして入浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			1階	2階	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、各個人の休みたい時間に休んでいただいている。寝れない方は、落ち着くまで夜勤者と食堂で話しをしたりしている。夜間不眠で、日中に影響が出てしまうような方には、主治医と相談し眠剤を処方していただいている。	就寝時間は、各個人の休みたい時間に休んでいただいている。寝れない方は、落ち着くまで夜勤者と食堂で話しをしたりしている。夜間不眠で、日中に影響が出てしまうような方には、主治医と相談し眠剤を処方していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬を服用しているか、各職員にしっかり把握をしてもらっている。また看護師からも適宜説明を行なうようにしている。	何の薬を服用しているか、各職員にしっかり把握をもらっている。また看護師からも適宜説明を行なうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きな事は積極的に行って頂くようにしている。じっくり取り組めなかつたりする事も多いが、励ましたり手伝ったりしながら支援している。	ご本人様の好きな事は積極的に行って頂くようにしている。じっくり取り組めなかつたりする事も多いが、励ましたり手伝ったりしながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか自分から希望を言える方は少ないが、日課の公園までの散歩は、歩行訓練も兼ねてほぼ毎日出かけるようにしている。花見、紅葉見学、外食レクなど、毎月予定を立てて体調を考慮しながら出来るだけ皆で出かけるようにしている。遠方へのお出かけは、ご家族様をお願いしている。	なかなか自分から希望を言える方は少ないが、日課の公園までの散歩は、歩行訓練も兼ねてほぼ毎日出かけるようにしている。花見、紅葉見学、外食レクなど、毎月予定を立てて体調を考慮しながら出来るだけ皆で出かけるようにしている。遠方へのお出かけは、ご家族様をお願いしている。	天気が良い日は近くの公園に散歩に出かけている。また、季節毎の花見、紅葉見学、毎月のおやつ外食、地域の行事への参加、家族との外出等、出来るだけ戸外に出て外気にあたるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は、金銭管理ができる入居者様が少ないので、事務所で管理させていただいている。金銭管理が出来る方は、ご本人様が管理する事も可能です。	今は、金銭管理ができる入居者様が少ないので、事務所で管理させていただいている。金銭管理が出来る方は、ご本人様が管理する事も可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の希望があれば、いつでも支援している。	電話、手紙の希望があれば、いつでも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感のある装飾をし室温も適温になるように気を付けている。また、車いすの入居者様や歩行不安定の入居者様もいる為、通路には歩行を妨げるような物は置かないようにしている。	共有スペースには、季節感のある装飾をし室温も適温になるように気を付けている。また、車いすの入居者様や歩行不安定の入居者様もいる為、通路には歩行を妨げるような物は置かないようにしている。	玄関、廊下には座り心地が良いソファがいくつか置いてある以外は、さっぱりとした共有空間になっている。季節的な飾り物があり、壁には利用者の行事の写真が貼ってある。フロアの隅に一段高い畳の場所があり、こたつがセットしてあった。換気や湿度の調整には常に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、一人になれる空間はないが、ソファに座ったり、こたつにあたりたり、各自が思い思いに過ごせるように工夫している。	共有スペースには、一人になれる空間はないが、ソファに座ったり、こたつにあたりたり、各自が思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやベッドは備え付けてあるが、家で使用していた物などを持ち込んで頂き、家と同じような雰囲気でご過ごして頂けるようにしている。	クローゼットやベッドは備え付けてあるが、家で使用していた物などを持ち込んで頂き、家と同じような雰囲気でご過ごして頂けるようにしている。	クローゼット、洗面台が備え付けてあり、ベッド、テーブルと椅子のセット、カーテンを用意している。入居時には使い慣れた物や馴染みの物を持参して、自分らしく居室を整えている。フロアで他の利用者と一緒に過ごしているのが好む方が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設には防犯の為と万が一の時に備えて防犯カメラが設置されている。フロアや居室はバリアフリーとなっており、自由に行き来することが可能。またカメラに頼ることなく、見守りを重視しながら、入居者様が安全に生活できるように心がけている。	施設には防犯の為と万が一の時に備えて防犯カメラが設置されている。フロアや居室はバリアフリーとなっており、自由に行き来することが可能。またカメラに頼ることなく、見守りを重視しながら、入居者様が安全に生活できるように心がけている。		